

令和8年度全国学力・学習状況調査結果より

今年度の全国学力・学習状況調査（4月23日に6年生対象に実施）の結果が公表されました。

今回の調査によって見えてきたことを大切に、本校のめざす子ども像「だれにでも優しい子、いきいき学ぶ子、ひととつながる子、がんばりぬく子」の具現化にむけて、教育活動すべての分野において子どもたちの「学力」を高めていきたいと考えています。



1 学力調査(国語・算数)の結果について

国語		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				本校	滋賀県（公立）	全国（公立）
全体			13	↑	59	60.9
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	4	↑	66.0	66.8
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	2	↑	49.8	52.3
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	↑	64.0	65.8
		B 書くこと	2	↑	43.9	45.7
		C 読むこと	2	↓	62.9	65.9
評価の観点		知識・技能	6	↑	60.6	62.0
		思考・判断・表現	7	↑	57.9	60.1
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	9	↑	60.1	61.9
		短答式	2	↑	63.1	62.6
		記述式	2	↑	50.8	54.9

算数		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				本校	滋賀県(公立)	全国(公立)
全体			16	↑	54	56.4
学習指導要領の領域		A 数と計算	8	↑	58.8	61.1
		B 図形	4	↑	52.8	55.3
		C 測定	1	↑	76.6	78.1
		C 変化と関係	3	↑	39.3	41.1
		D データの活用	4	↑	45.8	48.6
評価の観点		知識・技能	12	↑	57.9	60.1
		思考・判断・表現	4	↑	42.6	45.4
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	5	↑	54.3	56.0
		短答式	8	↑	57.3	59.7
		記述式	3	↑	45.0	48.5

☆学力調査の結果からわかること【国語】☆

- ・ほとんどの項目において全国平均を上回りました。特に「知識・技能」に関する問題の正答率は、全国平均を昨年度より大きく上回りました。これは、日常の授業に真剣に取り組み、スキルアップタイム等で基礎・基本を着実に身につけてきている証と言えます。
- ・「漢字を文の中で正しく使う力」においては、正答率が大きく全国平均を上回りました。比喻やくり返しなどの表現の工夫に気付く問題でも上回っています。家庭学習の取組も3年目を迎え、それぞれが自分に合った課題を見出して、日々コツコツと取り組んできた成果が定着につながってきていると考えられます。ご家庭での家庭学習のサポートや励ましに、改めてお礼申し上げます。
- ・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」のいずれも高い水準でした。話の順序や構成を考える問題や、図や資料を適切に引用して自分の考えが伝わるよう工夫して記述する問題などで優れた力を発揮しました。

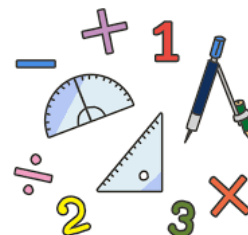
相手を意識し、順序立てて伝える指導の成果が出ています。

・本校国語科の中で唯一、全国平均を下回ってしまったのが「読むこと」の分野です。文章の構造を客観的に捉えることは得意なのですが、「文章を読んで理解したことに基づき、自分の考えをまとめる」という、一歩踏み込んだ応用的な読解に難しさを感じている様子が伺えます。また、文章を読んで考えたことを「自分の経験と結びつけてまとめる記述問題」の正答率は全国平均を下回っていただけでなく、何も記入せずに白紙で提出してしまった「無解答率」が、全国平均を大きく超えていました。完璧に書こうとするあまり考えすぎて手が止まってしまったり、自分の経験をどう言葉にしてよいか迷って時間が足りなくなってしまうことが原因と考えられます。客観的に文章を読むだけでなく、文章と「自分の実体験」をつないで書いたり、自分の言葉をノートに書き留めたりする機会を多く持ち、達成感を味わえるようにしていきたいです。



☆学力調査の結果からわかること【算数】☆

- ・すべての項目において全国平均を上回っています。自分の考えを数式や言葉で記述する「記述式」の問題において、本校は高い正答率でした。特に、荷物のまとめ方による送料の違いを言葉と数を用いて説明する問題では、多くの児童が正しく説明できており、「筋道を立てて表現する力」がしっかりと身につけています。
- ・計算力や、単位の理解、図形の特徴（直方体など）など、基本となる問題も非常によくできています。特に、重さや広さを比べる「測定」の領域は、全体の正答率が8割に達していました。
- ・単純な計算の技能にとどまらず、場面に応じて「どのように考え、判断するか」を問う問題の正答率が全国平均より7%ほど高く、思考力が高まっていることが分かりました。
- ・図を活用して関係を捉えること（「変化と関係」領域） 「赤いテープが白いテープの1.5倍になっている図を選ぶ」問題など、割合の関係をテープ図などの視覚的な図に結びつけて考える問題に課題が見られました。
- ・2つのアンケート結果の表を比較して、集計の誤りを論理的に説明する問題では、正答率が平均を下回りました。今後も、複数の情報を比較したり、「なぜその式になるのか」「なぜその答えになるのか」を、友達同士で図や言葉を使って説明し合ったりする時間を大切に、論理的思考力を高めていきたいです。



2 児童質問調査の結果について



◎大宝東小の子どもたちの「5つの強み」

1. 朝食を毎日しっかり食べて、元気に登校！

本校の児童の89.4%が「朝食を毎日食べている」と回答しました。これは全国平均（83.1%）や滋賀県平均（85.3%）を大きく上回る、非常に素晴らしい結果です。毎朝、栄養バランスを考え、子どもたちを笑顔で送り出してくださるご家庭のサポートに、心より感謝申し上げます。

2. 高い学習意欲と自信（特に算数と国語）

算数が「好き」と答えた児童は63.6%に上り、全国平均（57.6%）を大きく超えています。国語の授業内容が「よく分かる」と答えた児童も90.9%（全国平均：81.5%）と非常に高く、日々の授業での理解が自信に繋がっています。また、「月曜日から金曜日に1時間以上、家庭学習をしている」と回答した割合は77.3%に達し、全国平均（49.9%）を上回って家庭学習の習慣が根付いている様子が伺えます。

3. 「振り返り」を大切にする、主体的な学習態度

授業の中で、「分かったことや、よく分からなかったことを見直して、次の学習に繋げている」と答えた児童は86.4%（全国平均：78.4%）と、高い数値を示しました。ただ授業を受けるだけでなく、自らの学びをコントロールする素晴らしい姿勢が育っています。



4. 安心・安全の学級・学校をめざして（学年担任制、教科担任制の成果）

本校は子どもたちにとって、学級・学校が安心して過ごし、挑戦できる場となっています。「先生が自分のよいところを認めてくれている」と強く感じている児童は 62.1%（全国平均：53.4%）に達しています。「困りごとや不安がある時、先生や学校の大人にいつでも相談できる」と答えた児童は 48.5%（全国平均：33.9%）と、高い心理的安全性が確認されました。学年担任制や教科担任制により、たくさんの大人と関わるができるので、子どもたちにとって相談しやすい環境が整ってきていることが伺えます。

5. 心優しく、社会や人の役に立ちたいという意欲

「人の役に立つ人間になりたい」と強く思っている児童は 84.8%（全国平均：70.8%）と極めて高く、他者を思いやる向社会性が強く育まれています。今年度も代表委員会の子どもたちが中心となって、「だいひがまつり」を開催してくれました。このように『誰かのために頑張れる力』が育まれる児童中心の活動をこれからも大切にしていきたいです。



◎これからご家庭と一緒に改善していきたい「3つの課題」

1. 「睡眠習慣」と「メディア（動画・ゲーム）時間」のコントロール

「毎日同じくらいの時刻に寝ている」と答えた児童は 24.2%（全国平均：40.5%）と低く、生活リズムの乱れが懸念されます。平日にスマホやタブレット、ゲーム等で「SNS や動画視聴を 2 時間以上している」と答えた児童が 63.6%（全国平均：57.6%）に上っており、その原因の 1 つと考えられます。就寝前のブルーライトは睡眠の質を下げ、翌日の集中力低下に繋がります。「夜〇時以降はリビングの充電器に置く」「平日の動画・ゲームは 1 日〇時間まで」など、ご家庭内でのルール作りと見守りをお願いいたします。

2. 「読書習慣」の充実

普段の生活の中で、1 日あたりの読書時間が「10 分未満」または「ほとんどしない」と答えた児童の合計が 33.3%に達しています。読書は語彙力を豊かにし、他者の感情を思いやる「共感力」を育む上で欠かせないものです。学校でも「おすすめの本紹介」や「図書室タイム」など、本と関わる活動を取り入れています。ご家庭でも図書館に出かけたり、リビングに本を置くスペースを作ってみたりするなど、日常生活の中で「本に親しむ機会」をつくっていただけるとありがたいです。



3. 「多様な意見を認め合い、協力する力」の育成

今回の調査では、「友達関係に満足している」と強く感じている児童が 48.5%（全国平均：62.7%）と、全国に比べて低めでした。また、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と答えた児童は 19.7%（全国平均：31.9%）に留まっています。授業や学校生活の中で、一人ひとりの異なる意見や良さを活かしながら、みんなで協力して課題を解決する授業づくりを推進していき、お互いに認め合える、温かい人間関係づくりに力を注いでいきたいと考えています。ご家庭でも会話の中で、「〇〇ちゃん是这样ってんだね。それも面白い考えだね」「お友達と協力してどんなことができた？」など、他者の良さを認め、多様な見方に触れることを肯定的に受け止める言葉がけをお願いいたします。

今後も、本校児童の学ぶ力の向上が図れますように、本校教職員が切磋琢磨しながら、授業改善や研修に励んでいきます。子どもたちが互いの良さを認め、それぞれのペースで伸び伸びと学習や諸活動に取り組んでいけるよう、温かな人間関係づくり、子ども同士がつながり合える学級経営に取り組んでまいります。引き続き、家庭学習の見守り等、ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

